

第一章活用事例

小学校一・二年生版「心あがるく」 p.18
「手のひらを太陽に」 やなせ たかし p.19

中心資料

「まりちゃんと あさがお」(小学校校道徳 読み物資料集
平成二十三年三月 文部科学省)

【主題名】 みんなの大切な命

第一学年及び第二学年 3・(1)
「生きることを喜び、生命を大切にすることを。」

【ねらい】 生命を大切にしようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》について《全ての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つものです。よって生命の大切さはどれだけ強調しても過剰なことではありません。一・二年生の段階においては当たり前なこととして見過ごしがちな「生きている証」に気付かせ、生きることに喜びを実感させる指導が必要です。》

導入



「手のひらを太陽に」を歌いましょう。
どのような時に自分が生きていっていると感じますか。」

○「手のひらを太陽に」をみんなで元気よく歌い、「生きていよう」という歌詞に着目させて、どのような時に生きていっていると感じるかを考えさせます。

○教師が「まりちゃんのあさがお」を読み聞かせます。
○登場人物への共感を高めるために、場面絵やアサガオの写真などを提示します。



「はじめてあさがおを見た時、まりちゃんはどういう気持ちだったでしょうか。」

○あさがおが咲いたのを初めて見たまりちゃんに共感させることで、植物の成長を実感した時の感想や考えを出させましょう。



「しおれたあさがおを見た時、まりちゃんはどのような気持ちだったでしょうか。」

○しおれたあさがおを見たまりちゃんに共感させることで、植物の生命の衰退を知った時の感想や考えを出させましょう。

中心発問



「このちがはつながついていくんだな」といふおぼれた時のまりちゃんは、どのような気持ちだったでしょうか。」

○おぼあちゃんの言葉を思い出し、「いのちはつながついていくんだな」と実感しているまりちゃんに共感させることで、生命の連続性についての感想や考えを出させましょう。

○ワークシートなどを活用し、自分との関わりでじっくり考えさせることもできます。

《評価》 まりちゃんに共感し、生命について自分との関わりで考えることができたか。



「生きものが、『生きていよう』と感じたことはありませんか。それはどのような時ですか。」

○人間、植物の生命を始めとして、幅広い生命について振り返らせるようにしましょう。

○教師が生きていると感じた経験を話して価値をまとめさせましょう。

終末

板書例

【資料の特徴】 中心資料の「まりちゃんと あさがお」は、児童にとって身近な「あさがお」を通して、主人公と自らの体験を重ねながら考えることができる読み物です。「手のひらを太陽に」は、思いきり声を出して歌うことで、全体で自分の生命を感じることができる詩で、様々な命について考え、どれも生きていく大切な存在であることを認識させることができます。

生きている

- ・友だちとあそんでいる時。
- ・ごはんを食べている時。
- ・熱が出てきた時。

まりちゃんと あさがお

はじめてあさがおを見た時

お花も生きているんだ。

あさがおは、きれいな花がさくんだな。

そだててきたかがあった。

花がしおれてしまった時

せっかくさいたのに、かれてしまったのかな。

いっしょうけんめい育ててきたのにざんねん。

もうさかないのかな。

「いのちはつながついていくんだな」

あたらしいたねをまいてまたたいてつにそだてよう。

かれてもあたらしいのちができるんだな。

たねは、花の赤ちゃんみたいだな。

生きものが生きていると感じたこと

育てているしよくぶつがせいちょうした時。

かっている犬と歩いている時。

思い切り走ってむねがどきどきしている時。

ぼくらはみんな生きている。

まりちゃんがおぼあちゃんの話
を思い出している挿絵

まりちゃんがしおれた花を見ている挿絵

まりちゃんがあさがおに水をやっている挿絵

《評価》

様々な生命について自分との関わりで考え、生命を大切にしようとする心情を育てることができたか。